

LPガス30時間発電機

大槌の業者開発、町に寄贈

大槌町吉里吉里の金属加工業「山岸産業」は22日、東京の会社と共同開発したハイブリッドタイプの発電機と電動アシスト自転車1台ずつを町に寄贈した。写真。発電機はガソリンだけでなくプロパンガス（LPガス）でも動かせるタイプで、東日本大震災の教訓を生かして開発された。

震災では停電が続き、燃料のガソリンが不足して発電機を稼働できないケースがあった。町内の一般家庭に普及しているLPガスを非常時の電源確保に役立てようと開発したが、ハイブリッド発電機だった。発電機の発電容量は、一般家庭の電力をまかなえる規模の約5匹・切。50匹のLPガスボンベをつなげば、約30時間発電できる。



1台当たり39万8000円で、これまでに静岡県企業や茨城県の自治体などに計45台が売れたという。自転車は前輪で駆動する。

寄贈式では同社の山岸千鶴子専務が「一被災者として何か役立てる物を、と考えて開発した。震災で工場が流され、町のために何もできなかったが、これからは貢献していきたい」と述べた。碓川豊町長は「震災時の教訓を生かして開発したことは意義深い。南海トラフ巨大地震などの際にも役立つものだと思う」と話した。